

未来への 羅金盤

vol. 34

各業界でトップランナーとして活躍する先輩に、学生記者がインタビュー。今回は、大学卒業後ミュージカル俳優として数多くの作品に出演されている高橋莉瑚さんにお話を伺いました。



現在とこれまでのお仕事について教えてください。

私の仕事はミュージカル俳優です。ミュージカルは歌とダンスとお芝居の三つの要素からなる総合芸術。私は事務所に所属しており、制作会社が主催している作品にオーディションを受けて出演します。そのため、稽古や本番が入っていない時期から次の機会に向けて、日々自分を高め続けるのも大切な仕事です。

最近では舞台「千と千尋の神隠し」にも出演させていただきましたが、私の場合は海外のミュージカル作品に日本語版キャストとして出演することが多いですね。作品によっては海外の制作チームと組むこともあり、その際のコミュニケーションは基本的に英語です。通訳の方もいらっしゃいますが、できる限り自分の言葉で直接やり取りをするようにしています。

このお仕事をされるうえで、大切にされていることは何ですか。

舞台上での表現を魅力的に見せるには、インプットを蓄えることが大切です。ボイストレーニングやジムに通うのはもちろん、時間を見つけてミュージカルやお芝居を見に行くようにもしています。

また、海外作品に出演するときは、物語の時代背景やその国の文化を必ず事前に学ぶようにしています。役柄の考え方の根底がわかり、舞台上での立ち振る舞いや表現に深みが出るんです。ほかの国の言葉や文化を積極的に学んでいるのは、獨協大学で過ごした経験があるからこそかもしれません。

獨協大学に入ろうと思ったきっかけ、理由を教えてください。

じつは大学進学前は進路に迷っていたんです。幼いころからミュージカルが好きで、この業界に憧れを抱いていました。両親も私の想いを理解して応援してくれましたし、事務所や劇団に入るという道も考えました。

しかしその一方で「今すぐ俳優になることは果たして最善なのか」という迷いもありました。ミュージカルに関わる仕事に就きたいといっても、そこには台本の翻訳や、歌の訳詩など、クリエイター側を目指すという選択肢もある。もっと広い世界を知って幅を広げてからでも遅くはないはず…。そう考えて、獨協大学に進学を決めたのです。

学生時代に力を入れていたことを教えてください。

一つ目は英語学習です。特に思い出深いのは、ゼミで戯曲を一作品、全編翻訳したこと……大苦戦しました。翻訳に必要なのは英語力だとばかり思っていました。が、むしろ重要なのは日本語力。同じ意味を表す言葉を使っても、言葉尻や単語選びで伝わり方が大きく変わります。的確な表現を求めて、膨大な言葉と悪戦苦闘しました。今では、翻訳家さんには頭が上がりません。本当に尊敬しています。今は、訳された台詞を実際に口にする立場なので、翻訳家さんが考え抜いた言葉に敬意を払って、演じるようにしています。

二つ目は舞踏研究会での活動です。新入生歓迎会で魅了されて入部し、ライバルへの競争心を原動力に毎日授業の合間に練習しました。当時の経験のおかげで、私は今も「昨日より今日、今日より明日の自分を高めよう」と向上心を持って過ごしています。目標に向かって自分を高め続ける習慣は、獨協大学が育ててくれた私の財産です。

メッセージ ～学生の皆さんへ～

① 学生のうちは積極的な行動を。大学には十分な設備があり切磋琢磨する仲間がいる、その環境を活用しよう。

② 自分を信じて努力を惜しまない。自分を信じて走り続けることが、輝かしい未来を作る！

OFFICE STOMP所属

ミュージカル俳優 高橋 莉瑚さん(19年英語学科卒)

在学中は舞踏研究会に所属し、全日本学生競技ダンス選手権大会で2連覇、台北オープン・アジア学生ラテンの部総合優勝を飾る。卒業後、ミュージカル「オン・ユア・フィート!」にラテンダンサーとして出演。それを皮切りにミュージカル「グリース」「アナスタシア」「ヘアスプレー」などに出演している。



学生記者

島田 瑠里香(済2年)

今回高橋様のインタビューを通して、改めて大学に入る意義を感じました。すぐに社会人として働きにでることも良いかもしれませんが、大学だから経験できることや、やるべきことが見えてくると知りました。在学中にさらに自分の視野を広げていきたいと思います。

土屋 日花莉(律2年)

学生時代に力を入れて取り組んだことが現在も活きているというお話を伺い、学生のうちに積極的な行動をとり、様々なことに挑戦しようと思いました。また、経験を積み視野を広げて、将来の選択肢を増やそうと思いました。